

～闘魂記～

「闘魂」…魂をもって闘おうとする気持ち

西東京市立ひばりが丘中学校第1学年

第7号 2025年11月27日(木)

学年目標「けじめ」と「思いやり」

「じ た きょう えい
自他共栄」

柔道は日本の国技ともいわれ、単に勝敗を競うだけでなく、「日本の伝統的な考え方」や「相手を尊重する気持ち」を重視しています。そんな柔道を創設したのが、嘉納治五郎先生です。嘉納先生は柔道に2つの理念を取り入れました。それが「精力善用」と「自他共栄」です。今回は自他共栄について話をします。

自他共栄とは、「相手に対して敬い、感謝することで信頼し合い、助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えていこう（成長していこう）」という意味です。嘉納先生は、稽古に励む中でこの理念を育むことができれば、「社会に出たときにも必ず生きてくる」と伝えました。私もこの理念は柔道だけでなく、あらゆる集団生活の中で大切なことであると考えています。

中学校生活では、人間関係のトラブルはつきものです。トラブルのない学校生活は理想ですが、そうはいきません。学校は性格も価値観も、育ってきた環境も違う人たちが集まる場所であり、その中には、馬が合う人、合わない人がいます。また思春期という不安定な時期も重なり、他人の迷惑を顧みず、自分勝手な言動を繰り返すこともよくあることです。

現在、第1学年では「からかい」や「自分たちさえ楽しければよい」という考え方から、その場にふさわしくない言動をとってしまうことが増えています。友達との仲が深まるについ限度を超えてしまい、周りの人たちに迷惑をかけたり、自分勝手な行動が引き金となってトラブルが起きています。このようなトラブルが起きる度に、私たちは本人の話を聞き、自分の行動を振り返らせ、指導をしますが、すぐに効果が出るような特効薬はなかなかありません。生徒たちはさまざまな3年間の教育活動の中で、失敗と成功を繰り返しながら、良好な人間関係を築いていけるように、「周りにいる人の気持ちを尊重し、相手を傷つけない言動を心がけ生活していける力」を身に付けていきます。それは「他者を思いやる姿勢」であり、結果として自分自身が安心して生活できる環境をもたらします。

このように自分と他者がともに成長することを目指す「自他共栄」の理念は、学校生活でも社会生活においても必要とされる重要な力です。そのような力を身に付け、生徒たちが3年間の中で少しでも「自立」していけるよう、今後も学年全体で結束し教育を実践していきたいと思います。また、ご家庭でも現段階での学年の様子を機に、他者との関わり方についてお話ししていただけるとありがたいです。

＜三者面談のお知らせ＞

11月28日（金）から三者面談が行われます。担任より「三者面談のお知らせ」が配布されていますので、そちらで日程をご確認下さい。当日は上履きと外履きを入れる袋をご持参ください。自転車でご来校の場合は東門から入り駐輪してください。自動車でのご来校はご遠慮ください。ご協力よろしくお願ひいたします。

「とある先生の日常」

F先生は、教師道場や東京都中学校国語研究会に所属し、授業研究にとても熱心です。単一的な授業ではなく、授業内容によってペア学習やグループ学習などさまざまな工夫を凝らし、ひばりが丘中学校の生徒に活かしています。また、テニス部の顧問としても活動しており、とても優しく、ときにはユーモアもある先生です。そんなF先生は今後も生徒の成長を願い、どんな生徒も絶対に見捨てません。

